

ヴァイオス

小型メタン発酵システムの海外展開へ

一般廃棄物処理業等「ヴァイオス」を展開するヴァイオス(和歌山市、吉村英樹社長)は、2016年に「小型メタンガス発

酵システム」を開発し、事業幅を拡大、海外展開にも力を入れている。今年6月には国際協力機構(JICA)の「中小企業海外展開支援事業」案件化調査に採択され、

「同プラントを活用したメタン発酵システムの設置とビジネス展開に向けた調査を行うことが決まった。

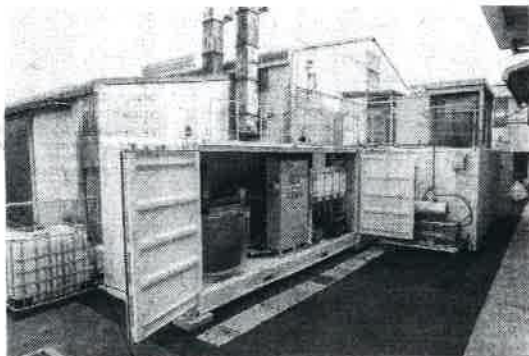
今回採択されたのは、「島嶼部における小型メタン発酵技術を活用した包括的有機資源循環システム導入の案件化調査」。

太平洋の島国パラオは、世界的な観光地として知られる一方で、増加する廃棄物の処理が課題となっている。埋立処分場はほぼ満杯である他、下水処理場には余剰汚泥の最終処理機能がなく、環境への悪影響が懸念される状況にあるという。

そこで同社は、メタン発酵システムの導入を提案した。活用するプラントは、海上輸送用20フィートのコンテナ2基に、ガスホルダーと一体化させた発酵槽、給湯器、発電機、制御盤など全ての装置を収納したオンサイト型システム。コンテナ形式のため、そのまま海外輸送でき、狭いスペースでも容易に取り付けられるのが特徴だ。

これがパラオのニーズに合致し、採択に至った。「パラオにこのシステムが導入されれば、最終埋立処分場の生ごみの約36%を再資源化し、エネルギーに転換することができるとする。」

同社は16年6月にも、JICAの「中小企業海外展開支援事業」基礎調査で、同プラントを活用した有機性廃棄物の再資源化システムの構築が採択されており、タイで基礎調査を進めてきた実績を持つ。今後も、同システムの海外展開を積極的に進め、現地の廃棄物削減や環境改善に役立てたい考えだ。



設置する小型メタンガス発酵プラント



プラント設置予定のパラオ最終処分場